

**研究課題名：**

対策型胃 X 線検診の受診間隔と検診精度の関連についての検討

**研究責任者：**

千葉隆士、只野敏浩、浅沼清孝、加藤勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）、研究事務局等はない。

**1. 研究の対象**

2009 年から 2018 年までの対策型胃がん検診受診者延べ 1,803,268 人から発見され、宮城県対がん協会の院内がん登録に登録された胃がん 3,451 例を対象とする。

**2. 研究目的・方法**

【目的】2016 年に厚生労働省の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が改正され、胃がん検診については 50 歳以上の者を対象に胃 X 線検査または胃内視鏡検査の選択性とし、原則として 2 年に 1 回行うことになった。ただし胃 X 線検査については当分の間、40 歳以上の者を対象に 1 年に 1 回実施しても差し支えないとしている。X 線検診は逐年検診を前提とした研究では検診後 2-3 年は死亡率減少効果が持続すると報告されているが、これらの研究ではがん発見前の受診間隔が長いと死亡率減少効果が減弱する傾向が見られることから、将来的に胃 X 線検診を逐年検診から隔年検診に移行するにはまだ議論の必要があると考えられる。

本研究では胃 X 線検診の受診間隔が検診精度の及ぼす影響について検討することを目的としている。

【方法】宮城県対がん協会において対策型胃がん検診受診者から発見され、宮城県対がん協会の院内がん登録に登録された検診発見癌症例を対象とする。検診発見癌を 1~3 年前に当協会の受診歴のある例、受診歴なしもしくは 4 年間以上受診歴なしを初回受診とし、検診発見癌における早期癌と進行癌比率を受診間隔別に比較検討する。

研究期間は倫理審査結果受理から 2023 年 3 月までとする。

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：性別、検診時年齢、病変の部位、組織型、臨床進行度、胃 X 線検診の受診歴、精検結果等

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者さまもしくは受診者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも受診者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県対がん協会がん検診センター

研究責任者：千葉 隆士 TEL：022-263-1525